

ご存知ですか？“自宅”でできるがんリスク検査

「がん」は、2人に1人¹ が罹患するいまや国民病のひとつといわれています。初期にはほとんど自覚症状がない「がん」に立ち向かうために重要なことは「がんの早期発見・治療」です。初期の段階で「がん」が見つかった場合、多くの「がん」において90%近い患者さんが診断5年後も生存という結果がでています。² ただ、検査に行くのが面倒等、検診に二の足を踏む方が結構いらっしゃいます。そういう方に今回ご紹介するのが、だ液によるがんリスク検査「SalivaChecker（サリバチェッカー）」です。

だ液は「身体の鏡」と言われ、がん細胞からしみ出す代謝物は血管を通りだ液にしみだします。サリバチェッカーは、最新の測定装置でこれを分析・解析します。一度に、「肺がん」「大腸がん」「胃がん」「膵がん」「乳がん」「口腔がん」の6つのがんリスクをチェックできるのも大きな特徴です。

検査方法は、自宅に届いた検査キットでだ液を採取します。採取時間はわずか2～5分、数滴のだ液を採取するだけなので体に負担はありません。その後キットを返送し、約1か月以内に検査結果が届きます。医師によるがんの診断ではないので、万が一リスクが確認できればその後本格的に検診を受けるきっかけになるはずです。ひまわり生命を介してサリバチェッカーをお申込みいただくと、12,100円で検査することができます。また2021年10月以降に当社がん保険加入の被保険者さまが、受検されたがんリスク検査結果をひまわり生命に提供することに同意いただくと、協力費として5,000円を差し引いた7,100円で検査いただけます。

ご質問、お問い合わせは担当者までお気軽にお問い合わせください。

- ・¹公益財団法人がん研究振興財団「がんの統計2021」年齢階級別罹患リスク（2017年罹患・死亡データに基づく）全がん
- ・²全国がんセンター協議会の生存率協同調査をもとにひまわり生命者にて作成（5年相対生存率は2010年～2012年、10年相対生存率は2004年～2007年診断症例）



お勧めの1冊！「親の健康を守る実家の片づけ方」



かつてきれいだった実家が、帰るたびに少しずつ散らかっていくのを感じたことはありませんか？ 家族の誰かに介護が必要になったときそれぞれの症状や状態に合わせたより快適で暮らしやすい片付けによって、症状の軽減・改善が期待できるかもしれません。片づけヘルパーは、介護のスキルと整理収納のスキルを合わせ持つプロフェッショナルです。

高齢者のために行う片付けは、大好きな自宅で少しでも長く生活できるようにすること、そして健康で、安全に暮らせることを目標にしています。

片付けをめぐって親子で喧嘩になるケースは少なくありません。「片付け＝きれいにすること」を目標とする子どもと、

きれいでなくても良いと考える親とのギャップが原因です。

本書では「きれい」よりも「安全第一」を目指し「親の健康を守る実家の片付け方」がまとまっています。

実家で暮らす高齢の父母のために、娘や息子ができる片付けの方法がわかる一冊です。

自宅の事故原因の1位は「転倒骨折」でありそれが寝たきりの原因になることもあります。

親子で一緒に片付けたことで、家の中で躓く心配がなくなったとの声も聞かれます。親のための片付けは親孝行・終活のチャンスでもあります。

あっという間に大掃除の時期がやってきますから。この機会に片付けの極意を学んでみてはいかがでしょうか？

ロイド かわら版

令和6年



秋号

発行所

保険代理店ロイド

今月の 社員紹介！

ロイドの井上勝弘
です。

保険業界に携わり、36年余り、今後もお客様のパートナーとして信頼、感謝されるよう努めてまいります。休日は学童野球の審判員として楽しく活動しています。



〈取扱代理店〉

株式会社 保険代理店ロイド

（本社）TEL.0466-50-2510 FAX.0466-50-0749

（東京オフィス）専用フリーダイヤル.0120-047-087

（本社営業時間：月～金 9:00～17:00 東京オフィス：月～金 9:00～12:00）

このチラシは概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。



気になる公的年金のゆくえ（2024年財政検証より）

公的年金制度は、現役世代が支払う保険料を仕送りのように高齢者の年金に充てる「世代間扶養」の仕組みに基づいて設計されています。少子高齢化を見据えて制度を維持するために、給付で余った積立金を運用し、将来に備えています。積立金の運用から得られる財源は給付の1割程度に相当します。

政府は5年に1度、公的年金の財政見通しを作成し公表しています（財政検証）。2019年の財政検証では「年金2000万円問題」が話題となりました。2024年の財政検証では、一部見送りとなった項目もありますが、少子高齢化による制度の見直しは避けられないとされています。今後検討されてる代表的な事項として以下が挙げられます。

◎ 少人数の個人事業所でも厚生年金の加入を適用し、短時間労働者の賃金要件（週20時間以上の労働者）の撤廃や、最低賃金（月8.8万）の引き下げにより、厚生年金加入者を拡大する

◎ 基礎年金（国民年金）の保険料支払い期間を40年（20～59才）から45年（20～64才）に延長する

◎ 厚生年金標準報酬月額の上限（現在65万円）の見直し

健康保険標準報酬月額の上限は現在139万円です。健康保険は段階的に増額されてきましたので、厚生年金の上限の引き上げも一度に行われるわけではありませんが、財政検証には健康保険と同じ139万円までのデータが示されています。

これらの見直しは、負担が増える一方で年金額も増額する仕組みとなっていますが、少子高齢化で今の水準を維持することも大変になっています。そのため公的年金だけで老後の生活を賄うことは難しく、年金の積立金を運用しているのと同じように、個人も収入の中から積立運用し将来に備えることを検討しましょう。老後資金を確認するため必要なライフプランニング、家計診断、老後資金相談などはお気軽にお問い合わせください。

* 標準報酬月額とは社会保険料の計算をしやすくするために、会社から得た基本給のほか残業手当や通勤手当などを含めた税引き前の給与を一定の幅で区分したものです。 * 厚生労働省HP 2024年財政検証より

年金手帳

「リアルな災害体験で命を救う！」

災害が多発する現代では、もはやどこでいつ

被災者になってもおかしくありません。

皆さんは災害への備えが十分に出来ていますか？

日頃の防災訓練の重要性が一層高まっていますが、学校や職場を除けば防災訓練に参加する人はそう多くはないというのが現状です。防災訓練とは、災害時に適切な行動を取るための事前準備活動です。

地域自治体や、多くの人が活動する学校や企業では、防災訓練への取り組みの有無が、災害時の被害軽減に大きな影響を及ぼします。しかし、個人の防災意識が低いままでは、自治体や企業、学校が防災対策マニュアルを作成していても、十分な対応が取れるとは限りません。

より多くの人が防災への取り組みを当たり前にするためには、まずは防災訓練への参加を促進することが必要です。

そこで、手軽にリアルな防災訓練ができる「AR/VR災害体験」をご紹介します。

VR（仮想現実）では映像を全て作り込む必要がありますが、AR（拡張現実）は、今あなたがいる場所での災害を体験できます。つまり、普段通っている職場や学校、自分の部屋など慣れた場所で、しかも災害に遭う危険性が高い場所で訓練ができるのです。

地震や台風、津波など自然災害にはさまざまな種類があり、それぞれの災害に対して適切な行動を取らなければなりません。地震や台風を経験したことがある人は多いかもしれませんが、火災の経験は前者と比較するとほとんどないと考えられます。

「火災で恐ろしいのは 炎よりも煙」と言われておりそんな煙の中でも冷静に安全に避難することが重要になってきます。AR煙体験では、火災時に煙が充満している様子を再現し、しゃがむことで視界が変わるなど、実際の火災避難時に近い状況を体験できます。

学校の防災訓練でしゃがんで避難したことがない人も、AR煙体験を通じて、立ったままでは何も見えない煙の恐ろしさを実感することができます。

またVRの映像により、想定以上に災害が危険であることも体感できます。

タブレットやゴーグルで安全に防災体験ができるこの取り組みが、学校、企業、自治体で広がっていくことを期待したいですね。



* 一般社団法人AR防災HP より

〈取扱代理店〉



株式会社 保険代理店ロイド

（本社）〒251-0055 藤沢市南藤沢23-6 富士見ビル4 F

TEL.0466-50-2510 FAX.0466-50-0749

（東京オフィス）〒166-0003 杉並区高円寺南4-26-16 芦野ビル4 F

東京オフィス専用フリーダイヤル.0120-047-087

（本社営業時間：月～金 9:00～17:00 東京オフィス：月～金 9:00～12:00）

このチラシは概要を説明したものです。詳しい内容につきましては、取扱代理店までお問い合わせください。

